



TOPICS

学長
メッセージ

ニューノーマル時代の事業創造を目指して

学長・教授 仙石 正和

1. ニューノーマル時代

昨年11月ごろ、中国武漢市で初めて検出された新型コロナウイルスの感染症(COVID-19)は、その後世界的に感染が拡大(パンデミック)し、2020年6月現在で、世界のこの感染症による死者数は40万人を超えています。我が国では、緊急事態宣言が発せられ、本学でも、3月の修了式、4月の入学式が中止となり、対面授業をすることができず、現在でも授業は主にインターネットによる遠隔授業が行われています。その理由は、人々が密接、密集したりする場所で、密閉空間に居ることを自粛すること(三つの密(密接、密集、密閉)を避ける)が、感染拡大を防ぐと考えられたことによります。この世界的な感染拡大の影響は様々な領域に波及し、社会生活への影響では、例えば三つの密を避けるように人々の生活スタイルが変化し、感染拡大が収まってもその新しい生活スタイルが残る可能性が大きいことから、ニューノーマル時代(ニューノーマル:新常态、新しい日常)が到来すると言われています。その時代では、テレワーク、遠隔会議、遠隔医薬介護などが増え、人々が直接会わなくても、できるだけ直接会っているように感ずる情報通信技術(ICT)の開発が進むであろうことが予想されています。

2. beforeコロナ

コロナの感染拡大を時系列的にみると、beforeコロナ、preコロナ、inコロナ、withコロナ、afterコロナ、postコロナ、のようになると思います。現状では、withコロナの状態と考えられますが、今後感染拡大の第2波もあるとの予想ですので、注意が必要です。コロナ感染の始まる前の、beforeコロナでは、どのようであったかを世の中の産業分野などでのキーワードで並べてみますと、株主重視の資本主義から公益資本主義のような方向への変化への期待、DX(デジタル・トランスフォーメーション)とそれを支える技術として、CPS、ICT、IoT、BD、AI、AR、VR、ブロックチェーンなど、PX(ポートフォリオ・トランスフォーメーション)、SDGs、働き方改革、サービス産業の

価値共創、オープンサイエンスなどでした。グローバル化、デジタル化は、クローズからオープンへの(密から疎への)方向性を示し、働き方改革でテレワークなどの推進も目指していました。このことを考えると、私は新型コロナウイルスの感染症の世界的拡大によって、全く新しいいわゆるニューノーマル時代へ突然変わるであろうというより、単に時計が急に速く進んだという印象です。すなわち、ニューノーマル時代はすぐそこに近づいているのです。世界的な感染拡大ですから、個人的な日常だけでなく、社会・政治・経済いろいろな面で世界的な変化があることが予想されます。

3. 歴史に学ぶ

ご存知のように、ヨーロッパを襲ったペスト禍は、人口減少とともに産業革命を導く結果となりました。産業革命は、蒸気機関の技術が発端として有名です。蒸気機関は鉄道を生みましたが、同時に蒸気機関とはあまり関係ない、電報、写真、肥料、ワクチンの発明、上下水道などの新産業を生み、郵便、新聞、銀行などの登場へと繋がっていきます。この発展のなかで、単に技術の開発のみが、産業を支えたのではなく、製造業などの企業経営(マネジメント)の重要性が認識されていきました。この歴史上の出来事は、現在の状況にも当てはまります。

DX(デジタル・トランスフォーメーション)は、「進化したデジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革していく」ことを意味しています。DXはとかく現在の企業の仕事に上述のIoT、AI技術などでデジタル化しさえすればよいと考えて、結果的に予想に反してうまくいかない例が多く見られます。DXがうまくいく場合は、マネジメントが成功している企業です。コロナ禍などで変動する経済の中ででのマネジメントには、PX(ポートフォリオ・トランスフォーメーション)または、CX(コーポレート・トランスフォーメーション)、すなわち、事業環境に応じて、最適な資源配分を行い、組織の変革を行うことが求められています。このようにDXにはPX、CXが必要不可欠であることは、産業革命の時代に蒸気機関な

どの技術と同時に優れたマネジメントが必要不可欠であったことにピッタリと一致しています。

4. ニューノーマル時代を生き抜く人材育成

現在、私は「IT基礎技術」という授業を担当していますが、その中で大学院生に「ニューノーマル時代」の事業創造(ビジネス)について、自ら考えたことをプレゼンしてもらい、ディスカッションする機会を持ちました。様々な興味深いアイデアが出され、ニューノーマル時代を力強く生き抜く修了生が生まれると確信いたしました。

今回のコロナ禍は過去のペスト禍の際の産業革命と同様に、多くの新産業を誘導する可能性があります。この時代が、まさにニューノーマル時代なのです。このニューノーマル時代の事業創造を目指し、PX、CXのマネジメントとDXの技術を学ぶことができる最先端の専門職大学院を目指していきます。

補足:用語

ICT: Information Communication Technology (情報通信技術)
CPS: Cyber Physical System (リアルな世界とサイバー空間との相互連携)
IoT: Internet of Things (モノのインターネット)
BD: Big Data (ビッグデータ)
AI: Artificial Intelligence (人工知能)
AR: Augmented Reality (拡張現実)
VR: Virtual Reality (仮想現実)

学長・教授
仙石 正和【担当科目】
IT基礎技術

北海道大学 大学院工学研究科、博士課程修了。工学博士。大学で教育研究、情報通信工学の人材育成に従事。大学院博士課程修了後、北海道大学助手、新潟大学助教授、教授、工学部長、理事・副学長などを歴任。電子情報通信学会論文賞4回、業績賞、功績賞を受賞、同学会フェロー、名誉員。IEEE ICNNSP Best Paper Award 受賞、IEEE Life Fellow。国立大学教育研究評価委員会専門委員、大学機関別認証評価委員会の専門委員、日本学術会議連携会員など。地域では、新潟日報文化賞受賞、信越情報通信懇談会会長、新潟県IT&ITS推進協議会会長、新潟情報通信研究所理事長など歴任、関係分野で地域と深く関わる。

AC時代にますます重視される4つのAI

産官学連携担当副学長・教授 黒田 達也

1) BCとACで変わる社会

コロナ禍が世界を席卷し、コロナ前 (BC: Before Corona) とコロナ後 (AC: After Corona) で紀元前後のように生活様式や発想を変える必要があると多くの識者が説いている。インターネットの登場で21世紀は距離による情報格差がなくなることが期待されたが、実際はリチャード・フロリダがいうように暗黙知の価値が高まり、情報サービス産業の都市への集積から人口の都市集中が進んだ。しかしながら、コロナ禍はface to faceの情報コミュニケーションを困難にし、単なる形式知を超えた情報もある程度のクローズドなネット空間でやりとりせざるを得なくなり、「中間知」というべき領域の情報価値が生まれつつある(2020.4.29日本経済新聞「大機小機」より)。

社会が集積の価値を弱め、集団のボーダーを弱めることによって、組織の流動化や時間や空間の区切りが曖昧になっていく、それが我々の社会を大きく変えていくことになるのではないかと。本稿ではBC時代から日本社会にとって変革の鍵となると指摘していた「3つのAI」に新たなAIの一つを加えて、AC時代にそれぞれどのように変容するかを検証してみたい。

2) 3つのAI

BC時代から令和の時代に重要な概念として「3つのAI」を紹介してきた。すなわち、Artificial Intelligence(人工知能)、Alien Inside(外国人と多文化共生)、Agricultural



東京オトナ大学にて「3つのAI」について講義
(2019.12.1@東京駅ステーションコンファレンス)

Innovation(農的技術革新)の3点である。

人工知能に関しては、第3次AIブームがややピークアウトした感があったが、AC時代に入り、人が直接触れる領域が狭まると同時にAI搭載ロボットの活躍領域が広がること、厳格な個人情報ルールのボーダーが弱まり社会的な安心・安全確保のためにはビッグデータの活用が優先されるとの認識が広まること、あらゆる領域で人手間や人の移動を省くためのDX化が進むこと、などにより、もっと私たちの仕事や生活に浸透していくと思われる。

外国人と多文化共生に関しては、コロナ禍でインバウンド旅行者が消滅し、国内にあっては一時的に技能実習生中心に解雇が横行した。しかし、リモートワークでサイバーコミュニケーション

に慣れ、コロナの情報とともに世界の情報を見聞きする機会が増え、情報の世界での国境の垣根はむしろ下がった感がある。自動翻訳などの技術の進展により、言語の壁も取り払われると、外国人に対する許容度も広がるだろう。

一方、ヒトとモノの行き来については心理的な制約が続くように思う。BC時代より頻発する災害時にライフラインと物流、医療・福祉などが閉ざされた地域で一定程度必要とされることは認識されてきた。今回のコロナ禍で、地域や国ごとに一定の社会インフラのバランスの取れた充足が必要であることは再認識されたと思う。特に食とエネルギーはその最たるものであり、地域環境に寄り添う技術革新、地域のヒト・モノを持続的にサポートするための技術革新がAC時代には必要となるのである。

3) もう一つのAI

最後に今回のコロナ禍でもう一つのAI、Astronautic Imagination(宇宙飛行士の想像力)を大切にしたい。人類の共通の敵であるコロナウイルスを前にして、一部国益剥き出しの政争も露呈しているが、本来、人類は共通の敵を前にすると団結するものである。宇宙飛行士は宇宙から青い地球を眺めると、例外なくその上で争いが絶えない人類が愚かに思えるそうである。国や地方の違いも意識される一方で、全体の調和や協力が必要なこともコロナが人類に突き付けた課題である。

こうした「4つのAI」を意識してAC時代を希望をもって生きていきたいものである。



コロナ禍の直前に米国テキサス州ヒューストンにて宇宙ベンチャーを視察(右側中央が筆者)
(2020.3.5@JETROヒューストン)

修了生の活躍

MBAを取得された修了生に、入学経緯や大学院で学び得たこと、今後の抱負や目標などについて語っていただきました。



株式会社 新潟農商

Baubekkyzy Zhansaya さん

(バウベククズ・ジャンサヤ)

カザフスタン/アル・ファラビ名称カザフ国立大学大学院出身
(2020年3月本学修了)

【会社概要】

設立:1994年7月1日

本社:〒956-0015 新潟県新潟市秋葉区川口580-17

主な株主:株式会社新潟クボタ

事業内容:米穀の小売卸業・特定米穀の集荷および販売・肥料
および農薬の販売、種子および苗などの販売、
コイソ精米機の設置・販売

HP:<https://www.niigata-noshō.com/>

心安全で美味しいお米の販売をしている会社です。全国販売と共に海外への輸出にも力を入れています。モンゴルに合弁会社を設立し、香港やシンガポールではメーカーの株式会社クボタと協力して米の輸出を行っています。本学で取得したマーケティングの知識を活用して、既存顧客の拡大と新規顧客の開拓を目標としています。現在入社して3ヶ月目で、お米とその販売に関する知識を先輩方に教えてもらいながら小売販売を担当しています。直近の目標としては、輸出のノウハウを蓄積して、母国カザフスタンに新潟米の輸出を始めることです。



新潟県全域の契約農家さんの思いが詰まった 安心安全で美味しい新潟米を 母国カザフスタンに輸出することが直近の目標

日本語というツールを使って 新しい分野の知識を得たい

私はアニメがきっかけで日本という国に関心を持ち、母国の大学と大学院で日本語言語学を専攻しました。留学なども合わせて7年間自分の日本語能力を磨いてきましたが、大学院修了後に日本語は単なるコミュニケーションツールであることに気づき、そのツールを新しい分野の知識を得るために使えたいと考えました。ちょうどその頃に大学の先生のご紹介で本学に出会い、私にとって全く新しい分野の経営について学ぶことを決意しました。

経営学の知識習得とともに、 世界各国の人達との ネットワークを作ることができた

各講義を通じて起業や新事業を立ち上げるために必要なビジネスプラン作成法、経営

戦略、マーケティングといった経営学の基礎的な知識を得るとともに、新潟だけではなく、世界の国々の人達とのネットワークを作ることができました。本学の大きな特徴は、豊富な社会経験を持つ人とそうでない人、日本人と世界の様々な国から来日した留学生、会社経営者とこれから起業したい人といった多種多様な人々が一緒になって学べるということです。このような多種多様な学生と一緒にディスカッションをしたり、グループワークをする上で、様々な角度から考えられるようになりました。

本学で得た知識を活用し、 輸出のノウハウを蓄積して、 母国カザフスタンに新潟米を 輸出したい

当社は、新潟クボタの子会社であり、新潟県全域の契約農家さんの思いが詰まった安

本学で過ごした2年間は 人生の宝物

本学への入学を検討されている皆さん、仕事と勉強を両立できるかどうか心配だったり、留学生の皆さんの場合は、日本語能力に自信がないからついて行けるかどうか分からないといった不安な気持ちがあるかもしれません。私も入学前に不安を抱えていましたが、本学の先生方の優しいサポートと的確なアドバイスのおかげで、とても有意義な2年間を過ごすことができました。本学で過ごした2年間は人生の宝物となり、貴重な経験と素敵な思い出と一生の仲間ができた場所です。皆さんも人生の宝物になる2年間を過ごしてみたいでしょうか。

外国人採用を検討されている企業の皆様へ

本学は、世界14ヵ国40大学と交流協定を締結し、現在、11ヵ国95名の優秀な留学生在が学んでいます。本学でMBAを学ぶ留学生を採用することで、社内のダイバーシティ環境の推進につながります。

■経営に関する専門知識を学ぶ

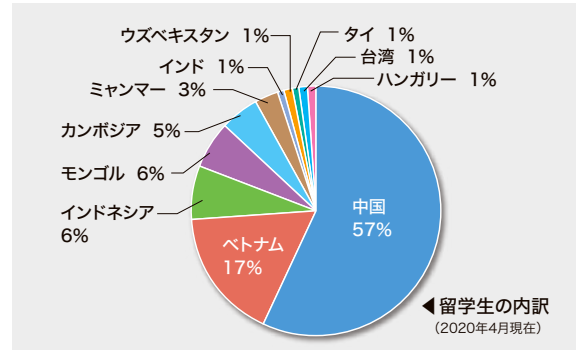
本学は「経営」に関して専門的な知識や実践を学ぶ大学院です。留学生は経営戦略やマーケティング、ファイナンス、経営組織など幅広い分野で体系的な理論を学ぶだけでなく、ビジネスの現場で今起こっている生きた経営学、明日から使える経営学を学んでいます。

■日本語での授業

本学の留学生は日本語能力試験N1およびN2以上の語学力を兼ね備えています。入学後は本学で実施する日本語教室で日本語スキルの向上に取り組んでいます。

また、本学の授業は日本語で行われ、試験もディスカッションもすべて日本語で行われますので、留学生の日本語コミュニケーション能力は堪能で、ビジネス上、支障はありません。

本学の特長



留学生の採用を考えている

アルバイトを募集している

どんな学生がいるか詳しく知りたい

お問い合わせ先

事業創造大学院大学 キャリア支援室 (担当:宮崎)

e-mail shushoku01@jigyo.ac.jp

お気軽にお問い合わせください。

INFORMATION

WEBオープンキャンパス

参加対象: 入学を検討されている方、MBA特別授業に興味がある方

本学では、入学を希望・検討されている方を対象に、オープンキャンパスを開催いたします。ぜひこの機会にお気軽にご参加ください。(参加無料・要予約)



開催日
2020年7月18日(土) 13:30~15:00

『アントレプレナー・ファイナンス』入門
-「ベンチャーとお金」について考えてみよう-

MBA体験授業 担当 唐木 宏一 教授

税理士試験科目免除申請説明会

参加対象: 入学を検討されている方、税理士を目指している方

税理士を目指している方を主たる対象に「税法演習」及び「会計演習」を開講しています。「税法演習」と「会計演習」のいずれかを履修し、修士論文を作成して本学を修了すると「税法演習」履修の場合は、税理士試験の「税法科目2科目の免除」を、「会計演習」履修の場合は、税理士試験の「会計科目1科目の免除」を申請することが可能となります。(修了後、国税審議会に申請し、認定を受けることにより受験が免除されます。)

開催日 2020年8月29日(土) 10:30~12:30

※大学院入学を検討される方は必ず説明会にご参加ください。
(説明会に参加されない方は本学への受験ができない場合がございます。)
※WEBでの参加も可能です。

個別オンライン説明会

参加対象: 入学を検討されている方

本学では、学びを始めた方、学びを続けたい方へ、空いた時間を活用し、自宅や好きな場所にいながら、いつでもどこでも最新の事業創造大学院大学をオンラインで知ることができる「個別オンライン説明会」を開催しております。(参加無料・要予約)

【内容】 大学院概要について、質疑応答

【参加方法】 ①Zoom、②Microsoft Teams のいずれか希望するソフトを使用して開催します。

【お申込み】 Googleアカウントをお持ちの方は右記QRコードよりお申込みください。お電話・E-mailでも受け付けております。



2020年10月入学 入試日程

・国内第2次入試: 2020年8月1日(土)
(出願受付期間: 2020年7月14日(火)~7月22日(水))

・国内第3次入試: 2020年9月5日(土)
(出願受付期間: 2020年8月18日(火)~8月26日(水))

※全てのオンライン説明会における通信料は、参加者負担です。ご了承ください。

※お申込み、お問い合わせ、詳しい大学院情報をご希望の方は、下記までご連絡ください。大学院のパンフレット及び募集要項等をご希望の方へ無料でご送付致します。



事業創造大学院大学

JPress 編集・発行 / 事業創造大学院大学 広報委員会

〒950-0916 新潟市中央区米山3-1-46
TEL 025-255-1250 FAX 025-255-1251
URL <http://www.jigyo.ac.jp/>
e-mail info@jigyo.ac.jp